

テーマ:多職種で考える医療と介護の連携について

【地域ケア推進会議】

平成27年10月29日(木)19:00~20:30

「医療と介護の連携」についての取組み事例の紹介を行いました。その後、病院における入院中カンファレンス、在宅におけるサービス担当者会議についてグループワークを行いました。エリア内の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、民生委員さんなど約60名に集まっていただきました。



恵珠苑 デイルームで実施しました

取組み事例の紹介内容

入院中の病院で開催された入院後カンファレンスの様子

医師、看護師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカー、ケアマネ、サービス事業所、民生委員、家族などが参加



主治医診療所で開催されたサービス担当者会議の様子

主治医、訪問看護、訪問介護、デイケア、ケアマネ、ショートステイ、デイサービス、福祉用具などの事業所が参加



「医療と介護の連携」について、どのように取組んでいくのか、2つの事例紹介(入院中カンファレンス・サービス担当者会議)は、連携の一つのステップとして、参加者の皆さんそれぞれにとっても参考になる内容だったようです。

その後のグループワークでは、現状でもできる連携方法についての意見交換やアイデア提供など活発に行われました。

- ・ 自宅や周辺の写真で在宅イメージがつかめて目標設定がしやすかった。
- ・ ケアマネの連携シートから病院では見えない情報が得られている。



- ・ 医師からの指示や助言は、疑問解決や対応の統一につながる。
- ・ 事前の課題整理や意見の聴き取りなどの前準備がもっと必要ではないか。



○終了後アンケートより

- ・ 入院後カンファレンスは在宅への切れ目のない支援にとっても重要。
- ・ 入院後カンファレンスは病院スタッフにとっても有意義な取組み。
- ・ これまでのサービス担当者会議を見直すきっかけになった。
- ・ 多職種ならではのさまざまな視点がとても参考になった。
- ・ 往診時や診療後の時間などで医師からの意見を聴くようにしたい。
- ・ 病院でのリハビリが在宅生活を見越していたか、反省させられた。

【編集後記】

今回の会議は「多職種で考える医療と介護の連携」というテーマで、エリア内の多くの関係職種の皆様に参加していただきました。2つの事例紹介やグループワークを通して、医師・医療関係職が持つ医療に関する情報と介護・福祉関係職が持つ生活に関する情報は、いずれも治療や支援に欠かせない大切な情報であるということを再確認できたのではないのでしょうか。

当包括支援センターでは、「医療と介護の連携」に向けて取組んでまいりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。